平成16年度埋蔵文化財調査事業概要報告書

一ノ谷池遺跡試掘調査報告書
高塚発掘調査報告書

2006.3

観音寺市教育委員会

例　　言

1．本書は、観音寺市教育委員会が平成16年度埋蔵文化財調査事業として実施した、①一ノ谷池遺跡試掘調査、②高塚発掘調査の概要報告書である。

2．上記①の一ノ谷池試掘調査は、観音寺市一ノ谷池土地改良区の地域用水環境整備事業に係る試掘調査で香川県観音寺市中田井町字天神岡858-1を対象とした。

②の高塚発掘調査は、観音寺市柞田土地改良区の土地改良事業（圃場整備）に係る発掘調査で香川県観音寺市柞田町乙3156-1他を対象地区とした。

3．発掘調査及び本書の執筆・編集は、観音寺市教育委員会事務局生涯学習課　文化振興係　主査久保田昇三が担当した。また、出土遺物の整理、実測等は長井真由美が担当した。

4．挿図の一部に観音寺都市計画図(1/10,000)、観音寺都市計画図(1/2,500)を使用した。

図面の方位は磁針方位で示し、方位の表示のないものは図面の上方向が北を示す。

5．出土遺物は観音寺市郷土資料館で保管している。

図面・写真等は観音寺市教育委員会事務局で保管している。

6．本事業の実施にあたっては、観音寺市一ノ谷池土地改良区、観音寺市柞田土地改良区、観音寺市農林水産課、油井土地改良の牧野忠弘氏、柞田町油井集落の皆様、発掘調査に携わった牧野巧氏、松岡豊史氏、山本正治氏、荻田公一郎氏、橋田良則氏にご協力を頂いた。

記して、謝意を表します。

目　　次

頁

Ⅰ．一ノ谷池遺跡試掘調査

(1)　調査に至る経緯と経過 …… 1

(2)　立地と環境 …… 1

(3)　調査概要 …… 1

◆一ノ谷池遺跡試掘調査地区位置図（1：10,000） …… 3

◆一ノ谷池遺跡試掘調査トレンチ配置図（1：2,500） …… 4

Ⅱ．高塚発掘調査

(1)　調査に至る経緯と経過 …… 5

(2)　立地と環境 …… 5

(3)　調査概要 …… 5

◆高塚発掘調査地区位置図（1：10,000） …… 8

◆発掘調査地区平板測量図（1：200） …… 9

Ⅲ．写真目次

(1)　一ノ谷池遺跡試掘調査記録写真 …… 11

(2)　高塚発掘調査記録写真 …… 14

Ⅳ．報告書抄録 …… 17

Ⅰ．一ノ谷池遺跡試掘調査

(1) 調査に至る経緯と経過

平成16年５月７日付で、「平成16年度土木工事予定地区内に所在する埋蔵文化財等の取り扱いについて」香川県農村整備課長より通知があった。それは、香川県教育委員会事務局文化行政課長より埋蔵文化財の保護措置を講ずる必要がある土木工事について、観音寺市が事業主体の「地域用水環境整備事業（一ノ谷）」が付近に青塚遺跡が所在することにより観音寺市教育委員会が分布調査等を行い埋蔵文化財の保護措置を行う必要があるという内容であった。

このことを受けて観音寺市教委では試掘調査に関する準備を開始し、平成17年度の試掘調査を、平成16年11月16日から平成17年３月４日にかけて実施した。

調査結果は平成17年４月20日付文書で県教委に報告し、平成17年４月21日付で観音寺警察に埋蔵文化財の拾得届を提出し、また同日付で県教委に埋蔵文化財保管証を提出した。平成17年５月12日付で埋蔵物の文化財認定が県教委から観音寺警察署になされた。

なお、平成17年８月17日付で観音寺市から埋蔵文化財の発掘通知（第94条第１項）が提出され、平成17年９月６日付で県教委から「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」通知（工事立会）があった。

(2) 立地と環境

調査の契機となった地域用水環境整備事業は観音寺市中田井町字天神岡に所在する一ノ谷池とその周辺を対象としている。事業対象地区の近くには平成４年５月に調査が行われた青塚遺跡が所在している。遺構は幅約1.6m、深さ約60cmの溝状遺構と土坑１基ではあるが弥生時代後期後半から末頃の弥生土器がコンテナ４箱分出土しており、集落跡の一部とみられる遺跡であり周辺に同時期の遺跡が広がる可能性があるものと考えられている。このことが、今回の調査の必要性があると判断されたひとつの理由である。

また、同遺跡の近くには古墳時代中期の青塚古墳が所在する。帆立貝式前方後円墳といわれる同古墳は阿蘇熔結凝灰岩製の石棺の一部が出土していることでも知られている。埋葬施設は現在未調査で詳細は不明であるが、市内室本町の丸山古墳の例もあるので今後慎重に検討されるべきものと思われる。なお、墳丘からは円筒埴輪片が出土している。

(3) 調査概要

調査は工事が計画されている区域のうち、平成16年度は一ノ谷池内に限り試掘トレンチ13ヵ所設定し遺構、遺物の確認を行った。下表にその結果を整理した。

調査地点	主な時代	主　な　遺　構	出土遺物等
トレンチ１ 1.6m×4.0m		なし	なし
トレンチ２ 1.4m×4.0m		なし	なし
トレンチ３ 1.2m×4.0m		なし	なし

トレンチ4 1.2m×3.0m		なし	なし
トレンチ5 1.0m×3.0m		なし	なし
トレンチ6 1.2m×3.0m	不明	溝（幅約1m、深さ約25cm）を確認。	なし
トレンチ7 1.2m×3.0m		なし	なし
トレンチ8 0.6m×1.4m		なし	なし
トレンチ9 1.0m×5.8m		なし	なし
トレンチ10 3.0m×4.2m ＋ 1.0m×2.0m	弥生時代	トレンチ中央部に長径31cm、短径21cm、深さ15cmの不整円形のピットを一ヵ所確認。ピット内には拳大の小石と弥生土器の破片が混在していた。	弥生土器（甕）１点
トレンチ11 1.0m×5.2m	不明	溝（幅約1m、深さ約40cm）を確認。	なし
トレンチ12 1.0m×5.8m		なし	なし
トレンチ13 1.0m×4.2m		溝（幅約1m、深さ約40cm）を確認。トレンチ11の溝と同じものとみられる。	なし

結果、明確に時代の確認できる遺構はトレンチ10のピット一ヵ所のみであった。トレンチ10については他のトレンチより広い面積を設定したが、その他の遺構遺物は確認できなかった。トレンチ6、11、13では溝が確認されたが遺物等は検出されず時代は不明である。なお、トレンチ11、13については昭和20年代頃にこの辺りに水を溜めて池周辺の農業用地に水を汲みだしていたようでありその跡ではないかと思われる。なお、その他のトレンチでは遺構遺物は確認されなかった。

現在、工事の日程の関係でトレンチ1～5までは遺構が確認されなかったことで開発側と協議を行い平成16年度中に工事が実施されている。トレンチ6～13については埋め戻しを行っている。

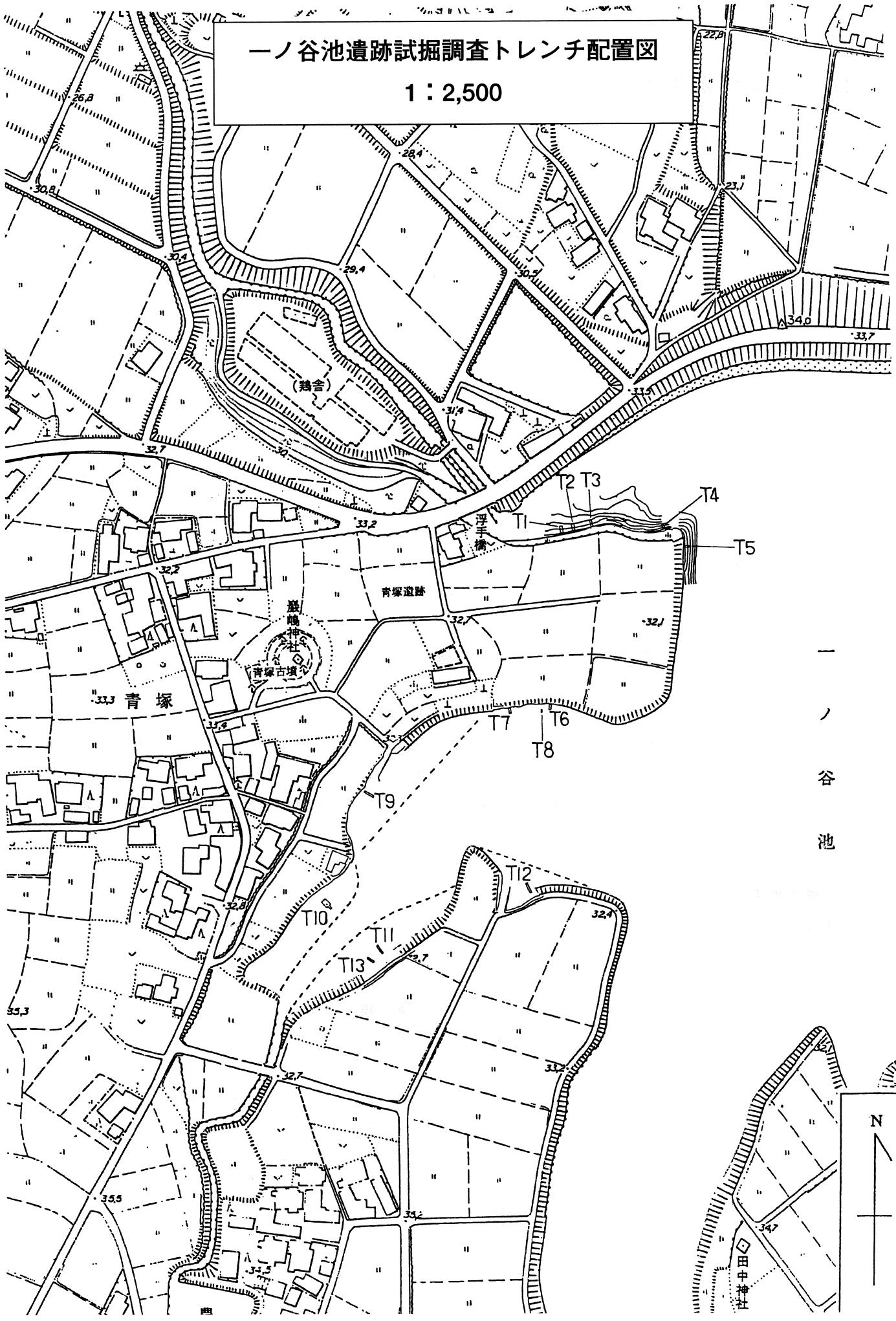
なお、トレンチ10に関してはその位置が工事対象の範囲になっているが、工事が2m程度の盛土を行い菖蒲園となる内容であるので遺跡に与える影響は軽微であると考えられる。協議の結果、トレンチ10周辺の遺跡の保存を図るため、現在の土地を削平することなく工事を実施しすることで合意した。なお、今回確認したトレンチ10周辺については「一ノ谷池遺跡」として埋蔵文化財包蔵地とし、遺跡に影響を与えるような工事に際しては事前の保護措置を講ずることとなった。

一ノ谷池遺跡試掘調査地区位置図

1：10,000

一ノ谷池遺跡試掘調査トレンチ配置図

1：2,500



II. 高塚発掘調査

(1) 調査に至る経緯と経過

平成16年３月29日付で観音寺市柞田土地改良区から土地改良事業（農地等高度利用促進事業広庄地区）に係る埋蔵文化財の所在の有無とその取扱いについての照会を受けた。平成16年４月15日付で観音寺市教委から柞田土地改良区へ回答を行った。その内容は、当該事業区域内には周知の埋蔵文化財包蔵地の高塚（野津古古墳）が所在するが、遺跡の残存状況等内容が不明な点が多く、確認調査を実施した上で遺跡の取扱いを協議するというものであった。

調査は平成17年２月７日から平成17年３月3日まで実施した。調査結果は平成17年５月31日付で香川県教育委員会へ報告を行った。なお、埋蔵文化財の拾得届は平成17年５月20日付で、また、同日付で埋蔵文化財保管証を県教委に提出している。

平成17年５月31日付で埋蔵物の文化財認定についての通知が県教委から観音寺警察署に出された。平成17年６月７日には県教委から市教委へ周知の埋蔵文化財包蔵地についての通知があり、調査結果に基づき文化財保護法第93条により「高塚」は周知の埋蔵文化財包蔵地としての登録が抹消となった。

(2) 立地と環境

高塚は、文化庁の「全国遺跡地図　香川県」（昭和52年３月25日発行）に高塚（野津古古墳）として記載され周知の埋蔵文化財包蔵地になっていた。所在する位置は観音寺市柞田町字広庄の油井集落南側の農地であり、標高は約７ｍで、旧海岸線からは約700m程度であり、比較的海に近い場所である。

高塚から南方約400mの所には、現在は合併により観音寺市となっているが旧大野原町花稲の埴穴塚古墳が昭和62年に発掘調査が行われている。同古墳は古墳時代終末期のもので、周囲には方形の周溝（一辺13.75m～16.5m）を配する方墳で出土遺物には須恵器、耳環が出土している。

また、高塚の近くには「油井の貝塚」、「大塚」などが前述の全国遺跡地図に記載があるが詳細は不明である。

(3) 調査概要

調査は10箇所でトレンチを設定し試掘調査を行った。下表にその結果を整理した

調査地点	主な時代	主　な　遺　構	出土遺物等
トレンチ１ 1m×6.1m	不明	溝状遺構（幅約３m、深さ約30cm）を確認。	須恵器片等
トレンチ２ 1.4m×7.3m	不明	溝状遺構（幅約4.2m、深さ約30cm）を確認。（トレンチ１に続く）	須恵器片、瓦片、陶磁器片等
トレンチ３ 1m×2.0m		なし	なし
トレンチ４ 1.m×2.1m		なし	なし

トレンチ5 1m×3.3m		なし	なし
トレンチ6 1m×5.6m		なし	なし
トレンチ7 1m×5.7m		なし	瓦片、陶磁器片等
トレンチ8 0.6m×1.9m	不明	溝状遺構（幅約80cm、深さ約10cm）を確認。	土器片等
トレンチ9 0.4m×2.0m	不明	土坑（幅約50cm、長さ約1m、深さ約20cmの不整形の長楕円）を確認。	瓦片等
トレンチ10 0.8m×3.0m		なし	土器片等

本調査区の中心部には測量図内にAで示したように石碑が建てられている。この石碑はかって石碑の近くにあった高塚を集落の青年が開墾した際の石室の一部を供養のために建立したものといわれている。地番では観音寺市柞田町乙3155-1、3156-1がそれにあたるものと思われ周知の包蔵地となっていた。今回の調査はその石碑を中心とした周囲の土地を対象とした。

高塚に関しては、大正時代に作成された柞田村誌には「……小サキ丘ノ如ク土■盛ラレタル一畝餘ノ廣サ塚アリタリ……然ルニ塚中ニ一ノ石棺如キモノアリテ中ニ一振ノ劔、銅ニ金ノ象眼ノ耳環三個古代風ノ土器六十個位堀出ス……」との記述がある。開墾した際の石材は近くのウガミ神社の境内に移したという話があり、現在もそれとおぼしき円形の盛り土や石材が存在する。また、明治時代に作成された絵図には乙3155-1に相当する場所が石置場という表現がされている。この頃には既に破壊を受け石室の石材等が露出した状態であったのではないだろうか。

調査は、まず石碑を中心とした周囲の圃地の耕作土を取り除く作業を行い、調査区を地番を単位として、以下のように5区設定した。1区（乙3157-1）、2区（乙3158の一部）、3区（乙3338）、4区（乙3153-1、乙3154-1）、5区（乙3155-1、乙3156-1）。

1区は204㎡あり、耕作土除去後遺構の有無を確認作業を行ったが遺構は確認できなかった。トレンチ6は土層の状況を確認するため設定した。

2区は140㎡あり、1区と同様の確認作業を行ったが遺構は確認できなかった。トレンチ7は土層の状況を確認するために設定した。

3区は181㎡あり、前の2区と同様遺構は確認されなかった。

4区は地番が二筆で計181㎡あり、遺構の有無の確認作業を行ったところ、トレンチ8付近には深さ約10cm程度の溝状遺構が、トレンチ9付近では不整形長楕円の土坑を確認したが、どちらも出土遺物は比較的新しいもので瓦片や板ガラス片なども埋土内より出土している。

5区は地番が二筆で計244㎡あり、耕作土を除去した段階で平面的に明確な土層の差異が見られる場所があった。それを確認するためにトレンチ1，2，3，4を設定し遺構の検出作業を行った。当初はトレンチ1からトレンチ2にかけて土層の差異がみられるラインが弧を描くようにカーブしていたので、古墳の周溝の一部ではないかと思われたが、トレンチ周辺に調査範囲を広げ検出する

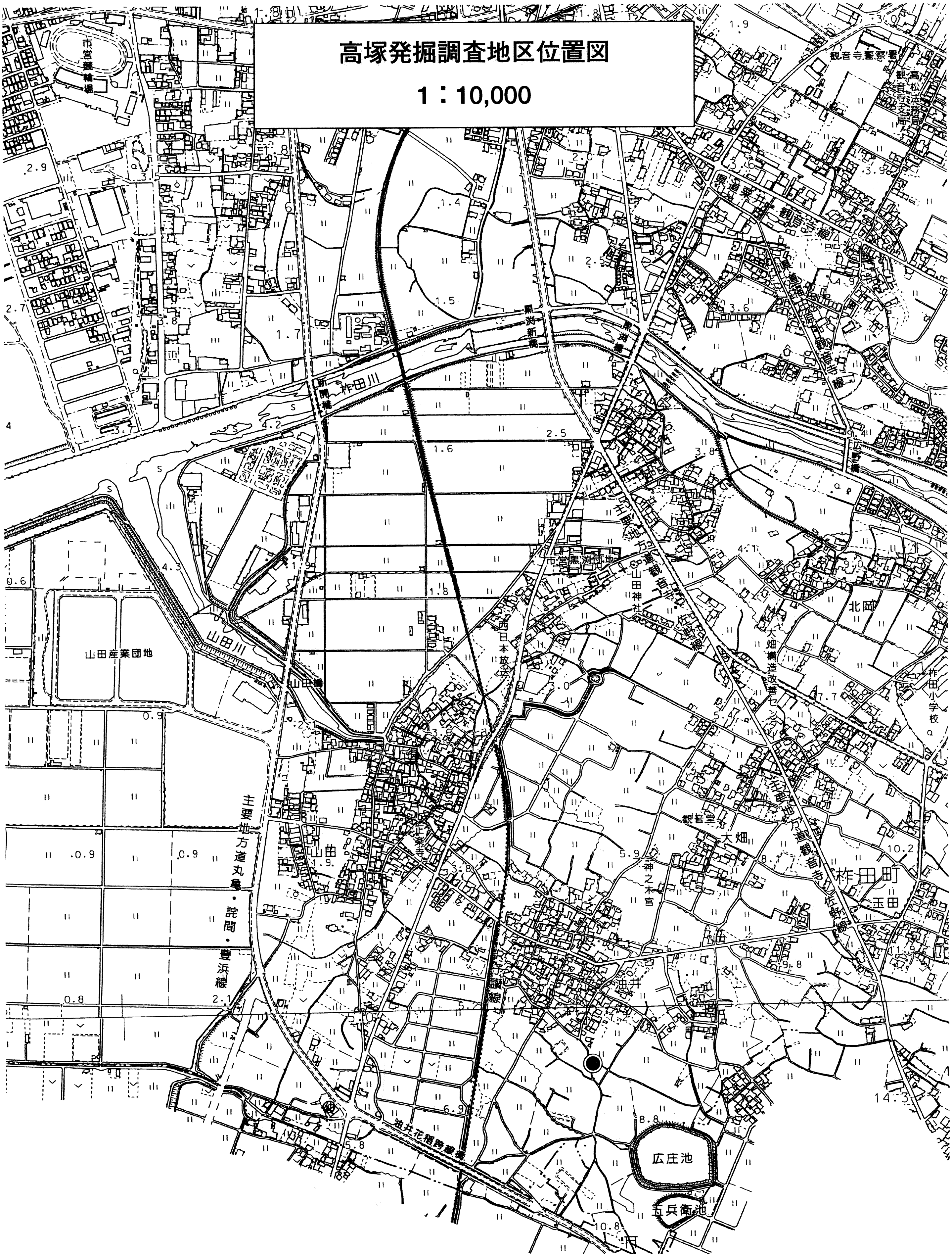
過程で結果的には幅約3～4m、深さ30cm程度の窪地状の地形であることが判明した。これは地番乙3156-1とおおむね重なり、この窪地状の地形が地番に反映された可能性がある。この窪地状の地形の埋土はおおむね3層からなり、下から1層目と3層目は黒色に近い暗茶褐色の粘質土で、2層目は小円礫を多く含む黄褐色土層である。この3層目からおもに須恵器片が多く出土した。出土品は須恵器がその大半を占めているが、そのほかにも瓦片、陶磁器片、すり鉢片、その他の土器片が混在して出土している。おそらくは、高塚と窪地状の地形であったところを農用地として開墾する目的で墳丘や石室に用いられていた土や小石を窪地状の低いところに埋め立てたものと思われる。つまり、5区の調査範囲の中では窪地状の地形以外での遺構は確認されなかったが、出土品などから、かっては、古墳時代の遺跡、古墳等が所在していたことは言えるだろう。出土した須恵器やウガミ神社の石材等からみて後期の横穴式石室を有する古墳であろうことは想定できるが、それ以上、遺跡の性格を推測できる資料は残されていない。

今回の調査で、これまで高塚として周知の埋蔵文化財包蔵とされていた土地周辺の検出を行った結果、須恵器などの遺物については出土したが、かってどのような遺跡が所在していたのかを示す明確な遺構は検出されなかった。

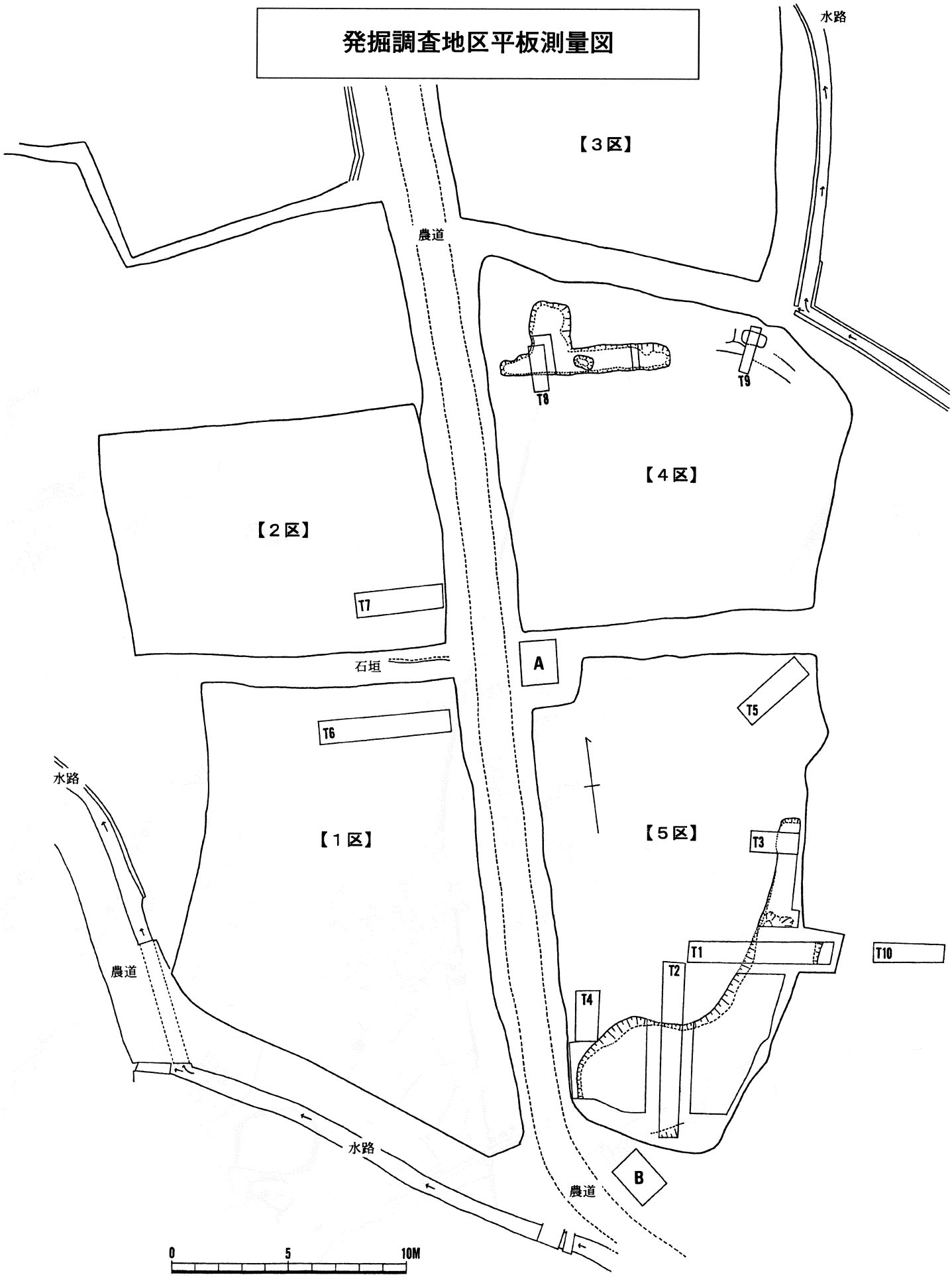
今後については、石碑のある場所を中心に長方形の区画を設け盛土をし、緑地にする計画である。また、5区の須恵器片等が出土した場所については盛土を行って農用地とする計画であるが、古墳等の遺跡に関する明確な遺構が確認されなかったこと、調査自体も今回で写真、図面等の記録を終了しているので、事前の保護措置については特にその必要性はないものと思われる。

高塚発掘調査地区位置図

1：10,000



発掘調査地区平板測量図



A　石碑（南無妙法蓮華経の銘がある）

B　ブロック造の小屋

Ⅲ．写真目次

(1) 一ノ谷池遺跡試掘調査記録写真

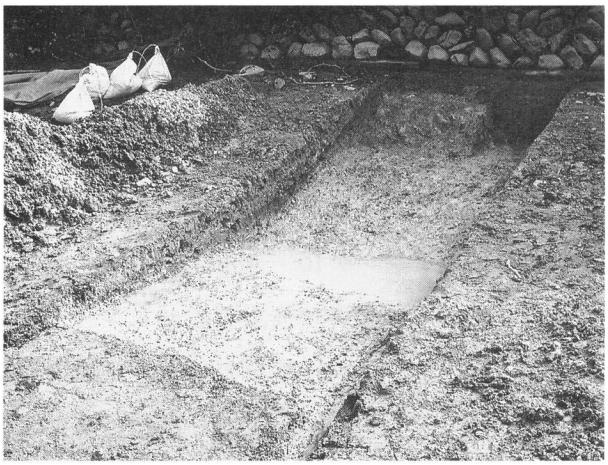
1．トレンチ１　2．トレンチ２　3．トレンチ３ …… 11
4．トレンチ４　5．トレンチ５　6．トレンチ６
7．トレンチ７　8．トレンチ８　9．トレンチ９ …… 12
10. トレンチ10
11. トレンチ10検出のピット
12. トレンチ10検出のピット（弥生土器片と拳大の石を取り除いた状況）
13. トレンチ10から取り出した拳大の石 …… 13
14. トレンチ10出土の弥生土器（口縁部）
15. トレンチ10出土の弥生土器（底部）
16. トレンチ11　17. トレンチ12　18. トレンチ13

(2) 高塚発掘調査記録写真

1．トレンチ１（５区） …… 14
2．トレンチ２（５区）
3．トレンチ３（５区）
4．トレンチ４（５区）
5．トレンチ５（５区）
6．トレンチ６（１区）
7．トレンチ７（２区） …… 15
8．トレンチ８（４区）
9．トレンチ９（４区）
10. トレンチ10
11. 調査５区の全景
12. 石碑（平板測量図中のAの位置）
13. 龕（うがみ）神社境内の石材（その１） …… 16
14. 龕（うがみ）神社境内の石材（その２）
15. 須恵器片（５区の溝状遺構より出土）
16. 須恵器片（５区の溝状遺構より出土）
17. 須恵器片（５区の溝状遺構より出土）
18. 須恵器片（５区の溝上遺構より出土）

(1) 一ノ谷池遺跡試掘調査記録写真

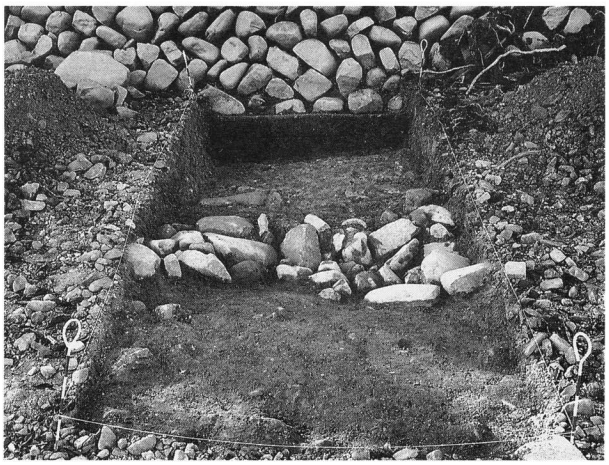
1．トレンチ1



2．トレンチ2

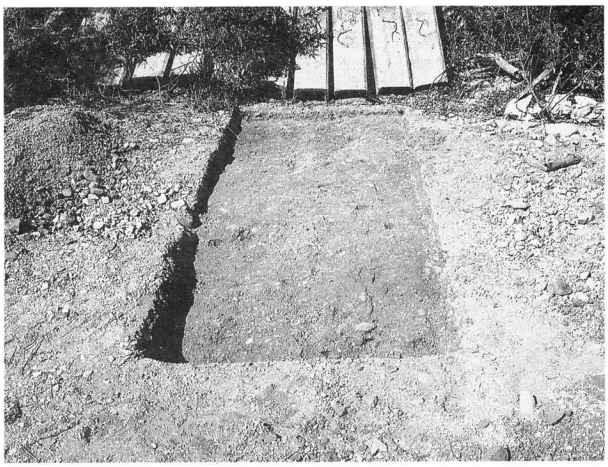
3．トレンチ3

4．トレンチ4

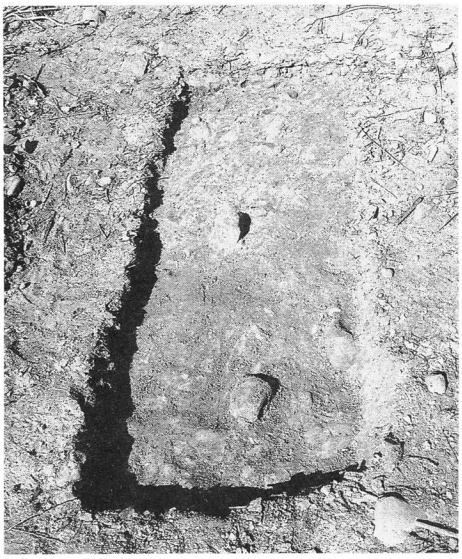


5．トレンチ5

6．トレンチ6

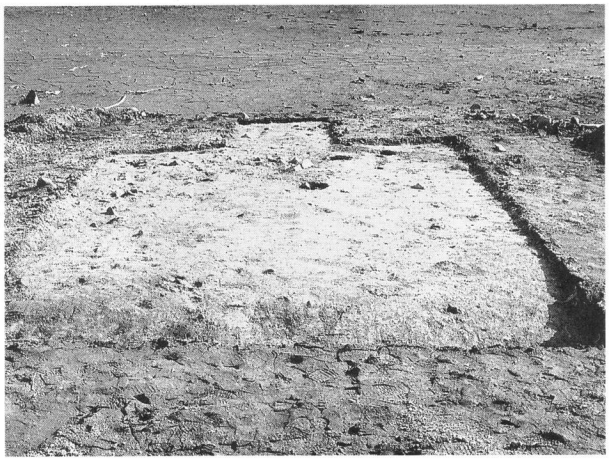


7．トレンチ7

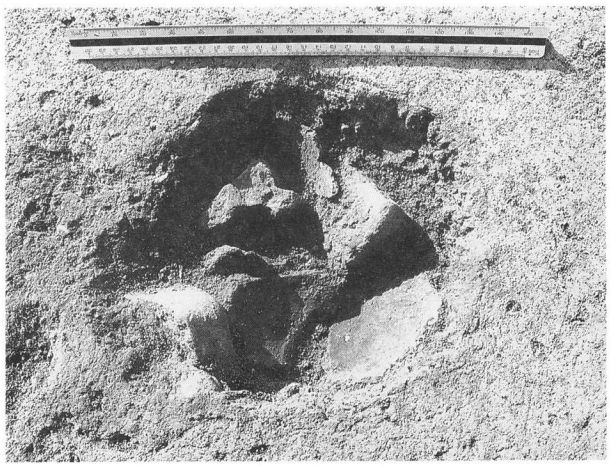


8．トレンチ8

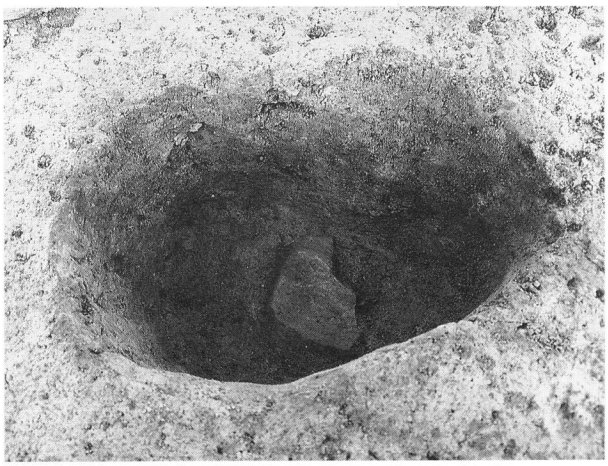
9．トレンチ9



10．トレンチ10

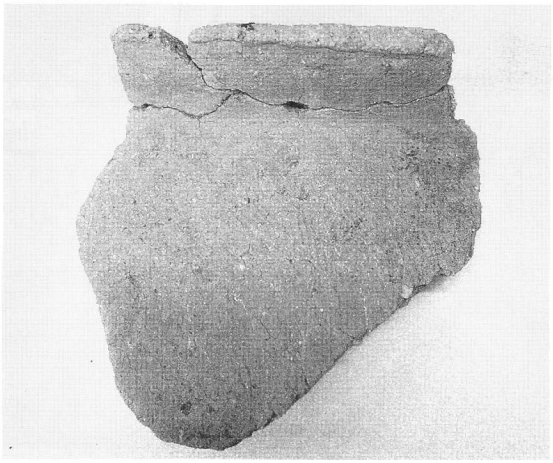


11．トレンチ10検出のピット

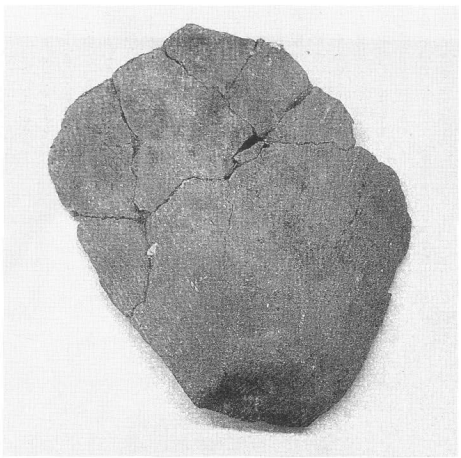


12．T10のピット（弥生土器片と拳大の石を取り除いた状況）

13. トレンチ10から取り出した拳大の石



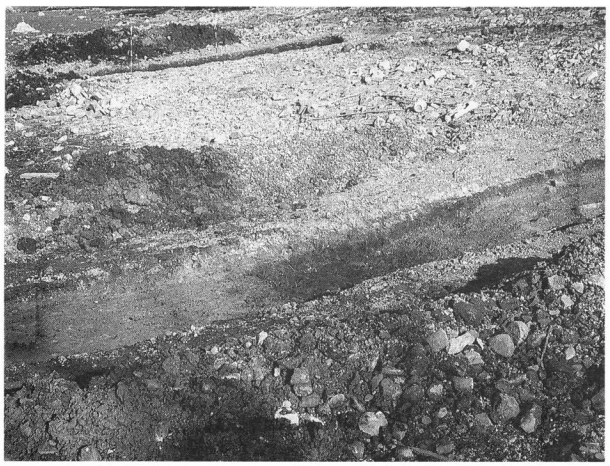
14. トレンチ10出土の弥生土器（口縁部）



15. トレンチ10出土の弥生土器（底部）

16. トレンチ11

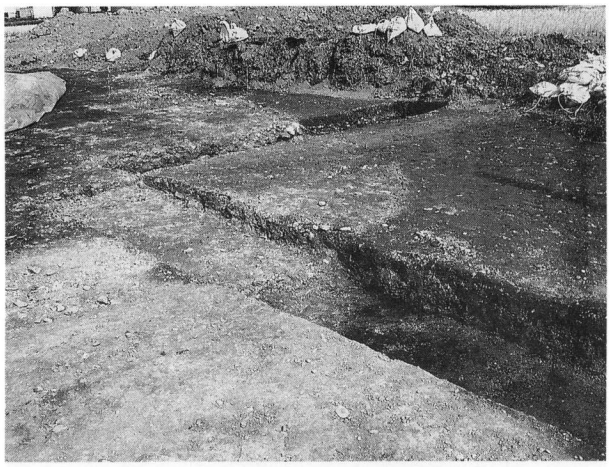
17. トレンチ12



18. トレンチ13

(2) 高塚発掘調査記録写真

1．トレンチ1（5区）

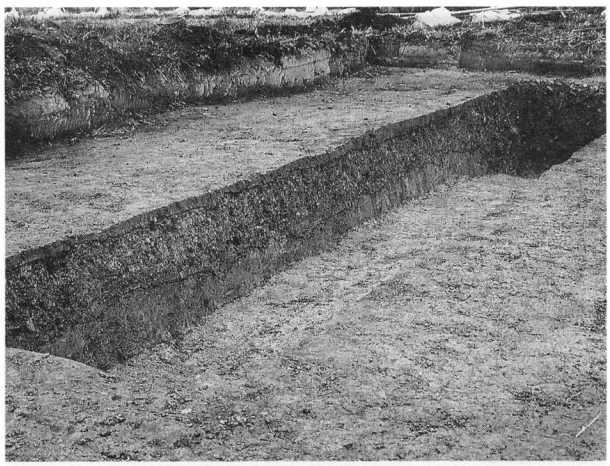


2．トレンチ2（5区）

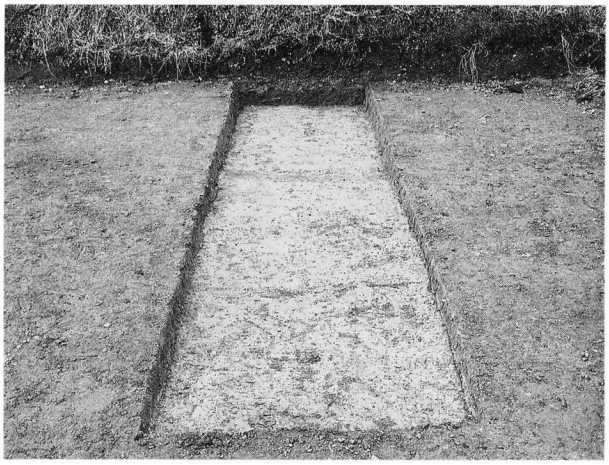
3．トレンチ3（5区）

4．トレンチ4（5区）

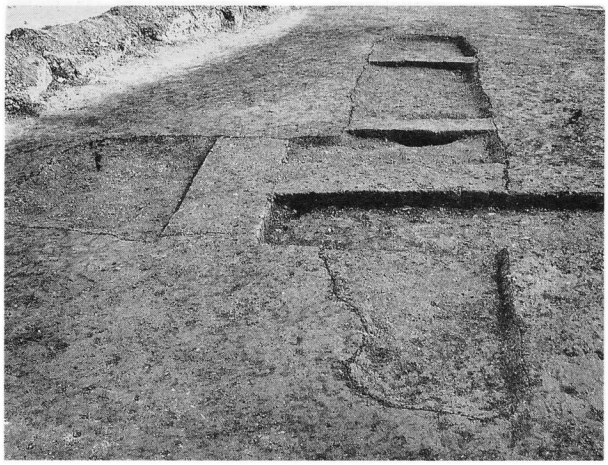
5．トレンチ5（5区）



6．トレンチ6（1区）

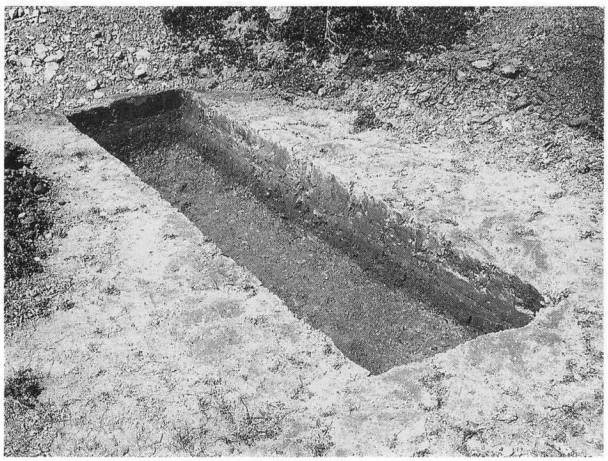


7．トレンチ7（2区）



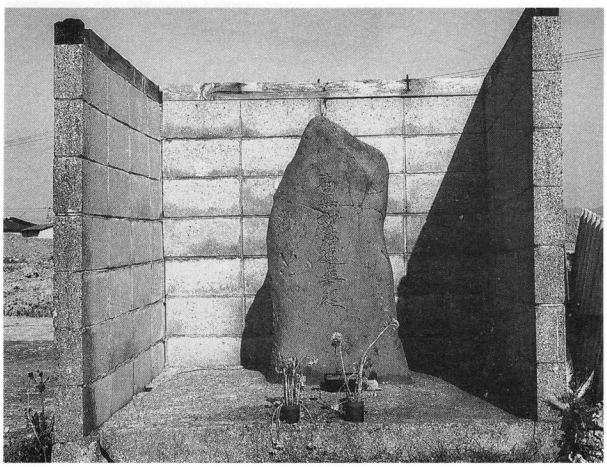
8．トレンチ8（4区）

9．トレンチ9（4区）

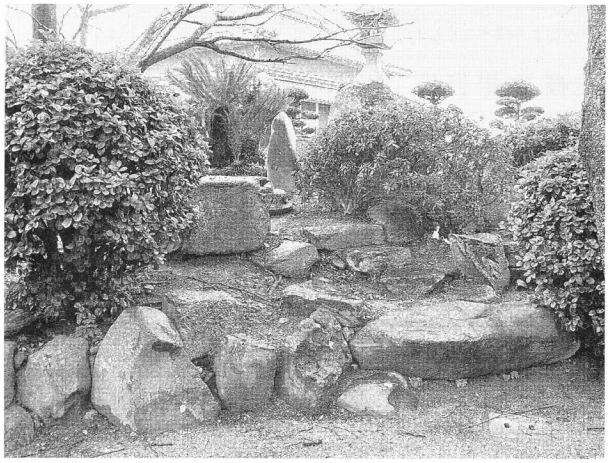


10．トレンチ10

11．調査5区の全景

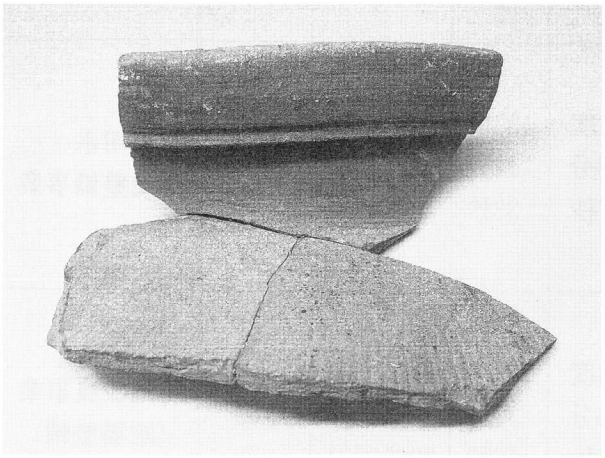


12．石碑（平板測量図中のAの位置）

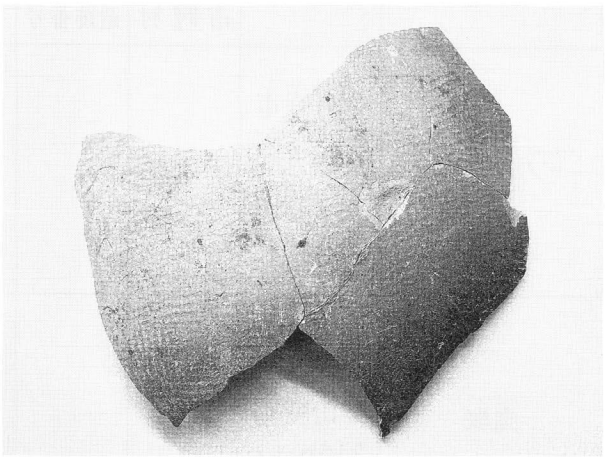


13. 龕（うがみ）神社境内の石材（その１）

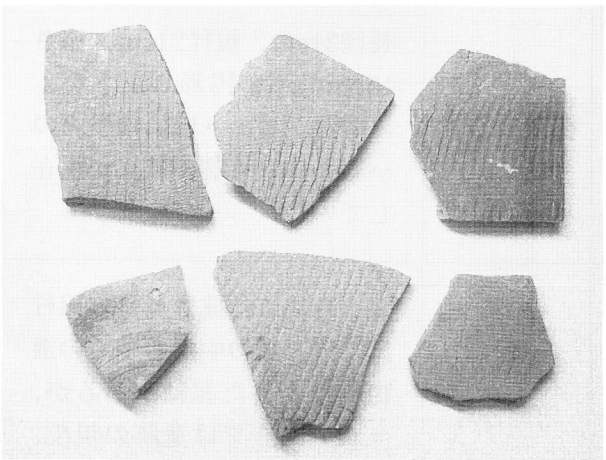
14. 龕（うがみ）神社境内の石材（その２）



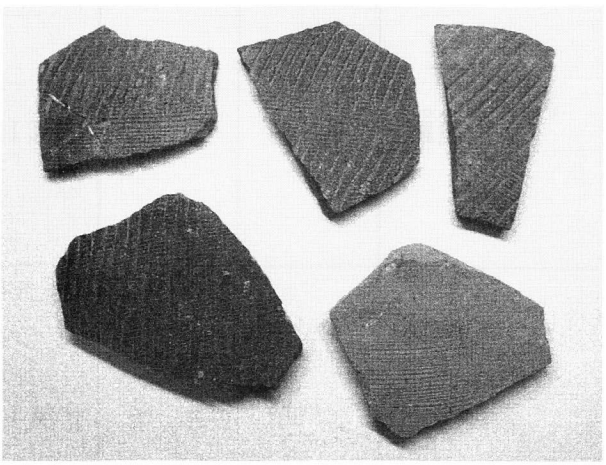
15. 須恵器片（５区の溝状遺構より出土）



16. 須恵器片（５区の溝状遺構より出土）



17. 須恵器片（５区の溝状遺構より出土）



18. 須恵器片（５区の溝状遺構より出土）

Ⅳ．報告書抄録

ふりがな	かんおんじしまいぞうぶんかざいちょうさじぎょうがいようほうこくしょ
書名	観音寺市埋蔵文化財調査事業概要報告書
副書名	一ノ谷池遺跡試掘調査報告書　　高塚発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	観音寺市教育委員会事務局生涯学習課文化振興係　主査　久保田昇三
編集機関	観音寺市教育委員会
所在地	〒768-8601　香川県観音寺市坂本町一丁目１番１号　TEL 0875－23－3943
発行年月日	西暦　2006年　３月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
いちのたにいけいせき 一ノ谷池遺跡	かんおんじし 観音寺市 なかだいちょう 中田井町 あざてんじんおか 字天神岡 858－1	37205		34度 6分 47秒	133度 42分 33秒	20041116 ～ 20050304	67.04	地域用水 環境整備事業
たかつか 高塚	かんおんじし 観音寺市 くにたちょうおつ 柞田町乙 3156－1 ほか	37205		34度 5分 56秒	133度 39分 16秒	20050207 ～ 20050331	769	土地改良事業 （圃場整備）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
いちのたにいけいせき 一ノ谷池遺跡	不明	弥生	土抗１基	弥生土器片	長径31cm、短径21cm、深さ15cmの不整円形ピットを１カ所認。ピット内には拳大の小石と弥生土器の破片が混在していた。
たかつか 高塚	古墳	古墳	古墳１基	須恵器片	大正時代に作成された柞田村誌には、塚の中から多くの遺物が出土した記録があるが、今回の調査では遺跡の規模、性格等を推測できる遺構は検出されなかった。

観音寺市埋蔵文化財調査事業概要報告書
一ノ谷池遺跡試掘調査報告書
高塚発掘調査報告書
2006（平成18）年3月31日発行

編集・発行　観音寺市教育委員会
〒768-8601
香川県観音寺市坂本町一丁目1番1号
電　話（0875）23－3943
ＦＡＸ（0875）23－3965
印　　刷　㈲有明高速印刷